

科目名		担当教員	
ソーシャルワークの基盤と専門職		二渡 努	
科目コード	単位数	履修方法	配当年次
CC3087	2	RorSR (講義)	2年以上



## 科目の概要

### ■科目の内容

現代の我が国では孤独死や引きこもりなど、福祉ニーズが複雑化、多様化、高度化しており、従来の縦割り、分野別の対応ではなく、総合的かつ包括的な対応が必要とされています。そのような福祉ニーズを充足するための実践活動をソーシャルワークといい、ソーシャルワーク実践の担い手である社会福祉士、精神保健福祉士に課せられた使命は大きなものであるといえます。

本科目は、ソーシャルワーク実践の基盤となる価値観の涵養を図り、理論、方法に関する知識、技術について学習するものです。具体的には、社会福祉士と精神保健福祉士の法的な位置づけ、ソーシャルワークのグローバル定義、ソーシャルワークの形成過程、ソーシャルワーク実践における原理と理念、ソーシャルワークの倫理綱領、ソーシャルワーク実践において直面するジレンマ等について、現状のみならず、それらが必要とされる社会的背景についても学習します。

### ■到達目標

- 1) ソーシャルワークの専門職である社会福祉士及び精神保健福祉士の法的な位置づけを述べることができる。
- 2) ソーシャルワークの基盤となる考え方とその形成過程を説明できる。
- 3) ソーシャルワーク実践を支える価値規範と倫理について説明することができる。
- 4) ソーシャルワーカーが倫理的ジレンマに直面した際の対応について説明することができる。

### ■学位授与の方針（ディプロマポリシー）との関連

とくに「人と社会の理解力」「俯瞰的な分析力」を身につけてほしい。

### ■科目評価基準

レポート評価 40%+スクーリング評価 or 科目修了試験 60%

### ■教科書・参考図書

【教科書】（「ソーシャルワークの基盤と専門職（専門）」と共通）

日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『最新社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座 [共通科目] 11 ソーシャルワークの基盤と専門職（共通・社会専門）』中央法規出版、2021年  
（スクーリング時の教科書）上記教科書と配付資料を用いて講義を行いますので、上記教科書は必ず持参してください。

【参考図書】

- 1) 宮本節子著『ソーシャルワーカーという仕事』筑摩書房、2013年

- 2) 相川章子、田村綾子、廣江仁著『かかわりの途上で—こころの伴走者、PSWが綴る19のショートストーリー—』へるす出版、2009年
- 3) 勝部麗子著『ひとりぼっちをつくらない—コミュニティソーシャルワーカーの仕事—』全国社会福祉協議会、2016年
- 4) 右田紀久恵、高澤武司、古川孝順編『社会福祉の歴史—政策と運動の展開〔新版〕』有斐閣、2001年
- 5) メアリー・E.リッチモンド著、小松源助訳『ソーシャル・ケース・ワークとは何か』中央法規出版、1991年
- 6) 全米ソーシャルワーカー協会編、竹内一夫訳『ソーシャル・ケースワーク：ジェネリックとスペシフィック—ミルフォード会議報告—』相川書房、1993年
- 7) H・M・バートレット著、小松源助訳『社会福祉実践の共通基盤』ミネルヴァ書房、2009年
- 8) カレル・ジャーメイン他著、小島蓉子編訳『エコロジカル・ソーシャルワーク：カレル・ジャーメイン名論文集』学苑社、1992年
- 9) 日本社会福祉士会編『改訂社会福祉士の倫理—倫理綱領実践ガイドブック—』中央法規出版、2009年
- 10) 本多勇、木下大生、後藤広史他著『ソーシャルワーカーのジレンマ～6人の社会福祉士の実践から～』筒井書房、2009年

## スクーリング

### ■スクーリングで学んでほしいこと

スクーリングでは、ソーシャルワークの基盤・理論・方法についてイメージがもてるよう、具体的な事例を用いて講義を行います。ソーシャルワークは時代の要請に応じて変化するものであるため、国内・外を問わず、常に社会問題に関心を持つことを心掛け、どのような社会的背景からその内容が誕生、発展したのか、暗記ではなく考えながら学習する視点をもってスクーリングに臨んでください。

### ■講義内容

回数	テーマ	内容
1	社会福祉士及び介護福祉士法	社会福祉士及び介護福祉士法成立の背景、定義、義務、法制度見直しの背景等について学習する。
2	精神保健福祉士法	精神保健福祉士法成立の背景、定義、義務、法制度見直しの背景等について学習する。
3	ソーシャルワークの概念と基盤となる考え方	ソーシャルワークのグローバル定義について学習し、ソーシャルワークの全体像を理解する。ソーシャルワークの原理である、社会正義、人権尊重等について学ぶ。
4	ソーシャルワークの形成過程	ソーシャルワークの萌芽となった背景を理解し、その基礎が確立していく過程を理解する。ソーシャルワークの発展、展開、統合化までの流れ、理論展開について理解する。
5	ソーシャルワークの理念①	ソーシャルワークの理念である、当事者主権、尊厳の保持、権利擁護について学ぶ。
6	ソーシャルワークの理念②	ソーシャルワークの理念である、自立支援、ソーシャルインクルージョン、ノーマライゼーションについて学ぶ。

7	ソーシャルワークの価値、倫理①	専門職倫理の概念と、ソーシャルワーク実践の基盤となるソーシャルワーカーの倫理綱領、社会福祉士、精神保健福祉士の倫理綱領について学ぶ。
8	ソーシャルワークの価値、倫理②	倫理的ジレンマの内容や判断プロセスについて学ぶ。
9	スクーリング試験	

※オンデマンド・スクーリングでは、上記の講義内容と異なる場合があります。

### ■講義の進め方

教科書、パワーポイント、配付資料を用いて講義を進めます。

### ■スクーリング評価基準

スクーリング中に学んだ内容から出題します（教科書・配付資料持込可）。

### ■スクーリング事前学習（学習時間の目安：5～10時間）

スクーリング学習の講義内容に該当する教科書を読んでください。

## レポート学習

### ■在宅学習 15のポイント

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
1	社会福祉士の法的な位置づけ (第1章)	法制度成立の背景、定義、義務、法制度の見直しの背景等について学習する。  キーワード：社会福祉士及び介護福祉士法、名称独占、秘密保持義務、連携、地域共生社会	ソーシャルワークの専門職である社会福祉士が誕生した背景と現状、その変遷等について理解しましょう。法改正の内容については、改正の背景についても併せて理解しましょう。
2	精神保健福祉士の法的な位置づけ (第1章)	法制度成立の背景、定義、義務、法制度の見直しの背景等について学習する。  キーワード：精神保健福祉士法、名称独占、秘密保持義務、連携、地域移行支援	ソーシャルワークの専門職である精神保健福祉士が誕生した背景と現状、その変遷等について理解しましょう。法改正の内容については、改正の背景についても併せて理解しましょう。
3	ソーシャルワークの定義 (第2章)	ソーシャルワーク専門職のグローバル定義について学習し、ソーシャルワークの全体像を理解する。  キーワード：ソーシャルワーク専門職のグローバル定義、ミクロレベル、メゾレベル、マクロレベル	ソーシャルワーク実践の基本となる、ソーシャルワークのグローバル定義について、その内容と変遷等について理解しましょう。また、ソーシャルワーク専門職のグローバル定義の日本における展開についても理解しましょう。

4	ソーシャルワークの構成要素 (第2章)	<p>ソーシャルワークを構成する要素について学習し、ソーシャルワーク実践の具体的な内容を理解する。</p> <p>キーワード：クライアントシステム、社会資源、ニーズ、ソーシャルワーク・コンピテンシー</p>	<p>ソーシャルワークの構成要素について、ソーシャルワーク実践の具体的な事例に当てはめて理解しましょう。</p>
5	ソーシャルワークの原理 (第3章)	<p>ソーシャルワークの原理である、社会正義、人権尊重等について学ぶ。</p> <p>キーワード：社会正義、人権尊重、多様性尊重</p>	<p>ソーシャルワーク実践の原理となる、社会正義、人権尊重等について、ソーシャルワーク実践の具体的な事例に当てはめて理解しましょう。</p>
6	ソーシャルワークの理念1 (第3章)	<p>ソーシャルワークの理念である、当事者主権、尊厳の保持、権利擁護等について学ぶ。</p> <p>キーワード：当事者主権、愚行権、尊厳の保持、権利擁護</p>	<p>ソーシャルワーク実践の原理となる、当事者主権、尊厳の保持、権利擁護について具体的な事例に当てはめて理解しましょう。</p>
7	ソーシャルワークの理念2 (第3章)	<p>ソーシャルワークの理念である、自立支援、ソーシャルインクルージョン、ノーマライゼーション等について学ぶ。</p> <p>キーワード：自立支援、ソーシャルインクルージョン、バンクーミケルセン、ニリエ、ノーマライゼーション</p>	<p>ソーシャルワーク実践の際の原理となる自立支援、ソーシャルインクルージョン、ノーマライゼーションについて、具体的な事例に当てはめて理解しましょう。</p>
8	ソーシャルワークの形成過程：萌芽期 (第4章)	<p>ソーシャルワーク萌芽の背景を理解する。</p> <p>キーワード：慈善組織協会、セツルメント、バーネット、ジェーン・アダムス</p>	<p>ソーシャルワークの形成過程について、その萌芽となる慈善組織協会、セツルメント活動について理解しましょう。また、これらの活動が必要とされた社会的な背景も併せて学習しましょう。</p>
9	ソーシャルワークの形成過程：基礎確立期 (第4章)	<p>ソーシャルワークの基礎が確立していく背景を理解する。</p> <p>キーワード：リッチモンド、ミルフォード会議、ジェネリック、スペシフィック</p>	<p>リッチモンドが体系化したソーシャル・ケース・ワークの経緯と内容について理解しましょう。</p>
10	ソーシャルワークの形成過程：発展期 (第4章)	<p>ソーシャルワークが発展していく流れ、理論について理解する。</p> <p>キーワード：診断主義学派、機能主義学派、フロイト、ハミルトン、タフト、ロビンソン、グループワーク、コミュニティオーガニゼーション</p>	<p>ソーシャル・ケース・ワークが診断主義と機能主義に分化していく経過とその背景、グループワークとコミュニティオーガニゼーションの源流について、社会的な背景も併せて学習しましょう。</p>
11	ソーシャルワークの形成過程：展開期 (第4章)	<p>ソーシャルワークが展開していく流れ、理論について理解する。</p> <p>キーワード：パールマン、問題解決アプローチ、心理社会的アプローチ、生活モデル、バートレット、エコロジカル・アプローチ、ジャーメイン、ギッターマン</p>	<p>生活モデルなど、ソーシャルワークの各種アプローチやモデルについて理解しましょう。</p>

12	ソーシャルワークの形成過程：統合化 (第4章)	ソーシャルワークの統合化に関する時代的背景、統合化までの流れについて理解する。  キーワード：システム理論、統合化、ジェネラリスト・アプローチ、ジェネラリスト・ソーシャルワーク	ケースワーク、グループワーク、コミュニティオーガニゼーションの各技法が統合化される過程と背景について理解しましょう。
13	ソーシャルワークの倫理1 (第5章)	専門職倫理の概念と、ソーシャルワーク実践の基盤となるソーシャルワーカーの倫理綱領、社会福祉士の倫理綱領について学ぶ。  キーワード：ソーシャルワーカーの倫理綱領、社会福祉士の倫理綱領、社会福祉士の行動規範	ソーシャルワーカーと社会福祉士の倫理綱領の意義と内容について理解し、実践場面においてどのように活用するか、具体的な事例を想定して理解しましょう。
14	ソーシャルワークの倫理2 (第5章)	ソーシャルワーク実践の基盤となる精神保健福祉士の倫理綱領について学ぶ。  キーワード：精神保健福祉士の倫理綱領、精神保健福祉士業務指針、Y問題	精神保健福祉士の倫理綱領の意義と内容について理解し、実践場面においてどのように活用するか、具体的な事例を想定して理解しましょう。
15	ソーシャルワークの倫理3 (第5章)	倫理的ジレンマの内容と判断プロセスについて学ぶ。  キーワード：倫理的ジレンマ、守秘義務、タラソフ事件、バーンアウト	ソーシャルワーク実践において、倫理的ジレンマに直面した際、どのようなプロセスを経て対応するか、具体的な事例を想定して考えてみましょう。

## ■レポート課題

1 単位め	「TFU オンデマンド」上で客観式レポートに解答してください。
2 単位め	ソーシャルワーク実践において倫理綱領が必要とされる理由と、ソーシャルワーカーが倫理的ジレンマに直面した際の対応について、その過程と留意点について述べなさい。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

## ■アドバイス

課題のテーマについて正しく理解し、規定の文字数の範囲内で、誤字・脱字のない読み手に配慮した文章を記述することに留意してください。記述内容については、教科書等の要約のみとならないよう、課題テーマに対して自身の考察を客観的に記述することに留意してください。

### 【1 単位めアドバイス】

教科書をよく読み、「TFU オンデマンド」上で客観式レポートに解答してください。

### 【2 単位めアドバイス】

ソーシャルワーク実践においては、生命の保護、自己決定の尊重、秘密保持義務などの様々な価値が複数存在し、それらの価値が衝突する倫理的ジレンマに遭遇することがあります。ソーシャルワーカーとして、そのような状況に直面した際の対応について、そのプロセス、判断基準、留意点について具体的な事例と対応例をイメージしながら記

述してください。倫理的ジレンマについて具体的な事例や対応例がイメージできない場合は、ソーシャルワーカーやソーシャルワーカー以外の対人援助職の実践内容が記載された書籍、論文などを参考にしてください。

教科書の第5章「ソーシャルワークの倫理」を参考にしてください。

<キーワード>

ソーシャルワーカーの倫理綱領、社会福祉士の倫理綱領、社会福祉士の行動規範、精神保健福祉士の倫理綱領、倫理的ジレンマ

科目修了試験
--------

■評価基準

- 1) 課題のテーマについて正しく理解し、規定の解答用紙の範囲内で、誤字・脱字のない読み手に配慮した文章を記述することに留意してください。
- 2) 記述内容については、課題テーマについて事実誤認なく現状を理解した上で記述してください。
- 3) 現状整理にとどまらず、自身の考察が客観的に記述されているかという点を重点的に評価します。